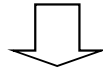


# 自立活動実態シート

小・中・高	2年	障害名	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、適応障害
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> 集団での活動経験が少ないため、場に応じた行動やコミュニケーションをとることが難しい。 学習面で分からないことがあると、諦めて手を止めてしまうことが多い。
	<b>興味・関心・特性</b> 車や虫について詳しく、興味のあるものについては、自らTPCを用いて調べることができる。
	<b>生活や学習環境</b> 新しい活動や場면을苦手とし、不安になると確認行動が多くなる。 手順を示したり、繰り返し指導することで落ち着いて学習に取り組むことができる。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理



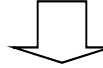
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	状況の変化に合わせて気持ちを落ち着かせるのに時間がかかる。	場に応じた適切な行動をとることが難しい。			

いくつかの指導目標の中で優先する目標



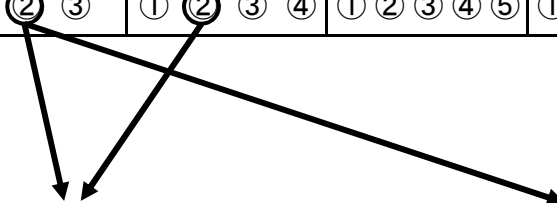
指導目標	授業や活動に落ち着いて参加することができる。 自分の気持ちをコントロールすることができる。
------	--

指導目標を達成するために必要な項目



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定



具体的な指導内容	活動ルールを守る。	時間を計って、活動と休憩を交互に行う。
----------	-----------	---------------------

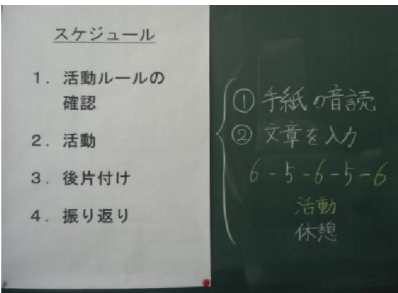
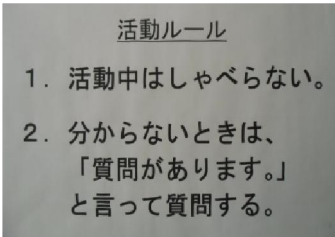
## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	2年	障害名	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、 適応障害
タイトル（題材名）	お世話になった先生に手紙を書こう			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	授業に集中できないことが多く、長い時間活動することが難しい。 場面の切り替えがうまくできず、気持ちが落ち着かないことがある。			

ねらい	①活動ルールを守る。 ②活動と休憩の切り替えがスムーズにできる。
-----	-------------------------------------

### 自立活動でねらうポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① <b>②</b> ③	① <b>②</b> ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

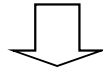
	活動の概要・流れ	ねらいを実現できるポイント	留意点
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を確認</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>手紙をつくる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>活動（6分）</li> <li>休憩（5分）</li> <li>活動（6分）</li> <li>休憩（5分）</li> <li>活動（6分）</li> </ul> </li> <li>振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の流れを授業の最初に確認するところ。（ねらい②）</li> <li>活動ルールを2つに絞り、1つずつ達成できるようにしたところ。（ねらい①）</li> <li>活動ルールを黒板に提示し、常に確認できるようにしたところ。（ねらい①）</li> <li>時間で区切って活動と休憩を行ったところ。（ねらい②）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しがもてるように、スケジュールを黒板に提示する。</li> <li>質問するときの例をいくつか紹介し、生徒にとって質問しやすい方法を考えてもらう。</li> <li>教師側もルールに従った形で質問するようにする。</li> <li>時間の経過が分かるように、タイムタイマーを設置する。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>6分間話さずに活動に取り組むことができるようになった。</li> <li>スケジュール表を黒板に提示したり、時間の経過が分かるようにタイムタイマーを使用したりすることで、活動と休憩の切り替えがスムーズにできるようになった。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1つの形式段落を打ち込む」、「生徒が目標とした文章量を打ち込む」などの方法で、活動の区切りをつけることも考えられた。</li> <li>評価が曖昧になったため、評価の結果が視覚的に分かるように評価シートを作成する必要があった。</li> </ul>		

# 自立活動実態シート

小(中)高	3年	障害名	自閉症スペクトラム障害、選択性かん黙、不安障害
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

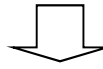
児童生徒の実態	<p><b>発達や経験の程度</b>                  選択性かん黙であり、家庭では母親とのみ会話ができる。会話において機能的な問題はない。幼児期から現時点まで、教師と会話した経験はない。中学部では、担任や物を介して、他の教師や生徒と関わる経験を積んできている。慣れた教師に対しては、学校のiPadやパソコンを使用してインターネット検索欄に単語を入力することにより、自分の思いや考えを伝えようとする。</p>
	<p><b>興味・関心・特性</b>                  手先を使う細かい作業が得意で、特にUVレジン液を使用して、細かく美しいデザインのキーホルダーやペンダントを作ることができる。自信作については、自ら担任に見せ、教師に褒められると微笑む。また、猫がとても好きである。</p>
	<p><b>生活や学習環境</b>                  睡眠リズムが不安定であること、学校でトイレができないことから、週2、3日午前中1時間登校を継続している。</p>

収集した情報を自立活動の区分に即して整理



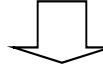
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	自信のあることについては、自ら担任に披露し、教師に褒められると微笑む。猫がとても好きである。	慣れた教師には、インターネット検索欄に単語を入力することにより、思いや考えを伝えようとする。			選択性かん黙であり、家庭では母親とのみ会話ができる。

いくつかの指導目標の中で優先する目標



指導目標	他の教師や生徒に対して自分から意思を伝える。
------	------------------------

指導目標を達成するために必要な項目



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	好きなことや得意なことなどを紹介するための自己紹介シート「すきすきマップ」を作る。	好きな猫の写真をパソコンに取り込み、Wordを使って文字を入力しながら、猫の首輪につけられるペンダント型の迷子札を作る。	UVレジン作品のコメントに返信する。
----------	---	--	--------------------

## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	3年	障害名	自閉症スペクトラム障害、選択性かん黙、不安障害
タイトル(題材名)	UVレジン作品のコメントに返信しよう			
対象となる児童生徒の実態(タイプ)	母親以外の人に対して、また家庭外の場所において、「意思を表現する」ということに不安がある。選択性かん黙であり、学校では、教師と会話、筆談、絵を描くこと、絵カードのやりとりなどが一切できない。教師が尋ねたことにかすかなうなずきでYes、かすかなくびふりでNoの意思を示す。学校のiPadやパソコンには自ら触ることができ、インターネット検索欄に単語を入力することができる。			

ねらい	・間接的にUVレジンの外部講師とやりとりをする。
-----	--------------------------

自立活動でねらうポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

指導内容	<p>① 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自信をもって作成したUVレジン作品を写真に撮り、担任がLINEでUVレジンの講師にその写真と写真を説明したコメント(担任が作成)を送る。(学校のiPadを使用)</li> <li>・講師からLINEで作品の写真に対するコメントが返ってきたら、生徒に見せる。</li> <li>・講師への返信として生徒がLINEのスタンプを選び、担任が講師にスタンプを送る。</li> </ul> <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や講師のコメントを見るところ</li> <li>・自分の気持ちに合ったスタンプを選ぶところ</li> </ul> <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師に写真にして送る作品を選ぶ際には、生徒の表情やうなずき、首振りの意思表示を見ながら生徒と一緒に作品を選ぶ。</li> <li>・作品の写真を選ぶ際には、数枚写真を撮り、生徒に気に入ったものを選ばせるようにする。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINEの画面をジッと見た。</li> <li>・担任が選んだ猫のスタンプをジッと見た。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bが猫のスタンプをどうして選べなかったのかを検証し、Bが選ぶことができる環境や選びやすいスタンプを考える。</li> </ul>



### 自立活動実態シート

小・ <b>中</b> ・高	2年	障害名	適応障害、広汎性発達障害
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<u>発達や経験の程度</u>
	こだわりがあり、自分の思い通りにならないと、精神的に不安定になりやすい。
	<u>興味・関心・特性</u>
	興味、関心をもって、学習に取り組めるが、失敗を受け入れにくく、反抗的な態度見せることがある。
	<u>生活や学習環境</u>
	生活リズムが安定せず、遅刻することが多いが、ほぼ毎日登校できている。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
体調を整えて、登校できているが、夜更かしをして、生活のリズムが崩れることがある。	感情のコントロールが難しく、失敗への恐怖心が強い。	徐々に友達を理解し、仲間意識をもち始めている。	周囲の状況や場の雰囲気把握するのが苦手である。	一連の作業において、最後まで注意の集中が続かないことがある。	目上の人とのコミュニケーションに戸惑いやすい。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協同で取り組むことで、友達のよさに気付く。</li> <li>・制作方法を相手に分かりやすく伝える。</li> </ul>
------	--

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
①②③④	①②③	① ② ③④	①②③④⑤	①②③ ④ ⑤	①②③④⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を提示する際は、共同で学習する楽しさを味わうことができるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前もって場面設定について説明して置いた上で、見通しをもって活動できるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的目標を示すとともに、実際に何度もやってみることで自分なりにうまくできる方法を考えたり、友達と意見交換したりできるよう配慮する。</li> </ul>
----------	---	--	---

### 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	2年	障害名	適応障害、広汎性発達障害
タイトル（題材名）	総合「飛べ！ギネス級紙飛行機」			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	こだわりはあるが、自分の興味・関心のある活動に取り組むことには意欲的で、小集団での活動に少しずつ慣れてきている。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協同で取り組むことで、友達の良さに気付き、自らの気付きにつなげる。</li> <li>・制作方法やよく飛ぶ方法を相手に分かりやすく伝える。</li> </ul>				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持 ①②③④	心理的な安定 ①②③	人間関係の形成 ① ②③④	環境の把握 ①②③④⑤	身体の動き ①②③④⑤	コミュニケーション ①②③④⑤

指 導 内 容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな飛行機を飛ばす。</li> <li>・よく飛ぶ紙飛行機について考える。</li> <li>・他学年を招待して滞空時間競技をする。</li> <li>・他学年を招待して距離競技をする。</li> <li>・より高記録が出る用紙の大きさを調べる。</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでよく飛ぶ紙飛行機を制作する場面</li> <li>・友達と競い合っ、紙飛行機を飛ばす場面</li> <li>・制作方法やよく飛ぶ方法を他学年の友達に伝える場面</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい指示は控え、楽しんで活動できることに重点を置く。</li> <li>・工夫や上達が見られたときに褒めることで、意欲を高める。</li> <li>・生徒同士がコミュニケーションを取りやすいように、小グループで活動する。</li> <li>・紙飛行機が飛ぶ仕組みや投げ方については、専門の教師に指導を依頼する。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めにオリジナル飛行機があまり飛ばなかったことで、どうしたらよく飛ぶかについて折る方法や飛ばし方をよく研究でき、精度を上げることができた。</li> <li>・他学年の友達に伝える機会を設けることで、学習を深め、相手に応じたコミュニケーションを考えるきっかけになった。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな活動をじっくりと深めていけるよう授業計画する。</li> <li>・今後も学年やグループ以外の友達と交流できる場を設定する。</li> <li>・興味の幅を広げ、仲間に入る力、仲間に入れる力を高められるよう支援する。</li> </ul>

# 自立活動実態シート

小(中)高	1年	障害名	高機能自閉症・社交不安症
教育課程	通常学級 重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> 日常生活で最低限必要なことは一人でできるが、経験不足のためできないことも多く、難しいことは大人に頼ることが普通になっている。 新しいことへの不安が強く、慣れない場所や集団での活動に対する緊張が大きい。
	<b>興味・関心・特性</b> 祖父母の影響から相撲が好きで、場所中は帰宅後にテレビ中継を欠かさず見ている。 苦手なことや難しいと感じたことから逃げようとする傾向がある。 気分が高まると自分でおさえることが難しく、興奮状態が続くことがある。 大人に囲まれて育っているため、学校では教員に話しかけることが多く、同年代の生徒との会話は少ない。 同じ内容で一方向的に話しかけることが多く、会話を持続することが難しい。
	<b>生活や学習環境</b> 食事、睡眠、排泄等の生活リズムは整っている。 学習に意欲をもっており、真面目に取り組むことができるが、集中を維持することが難しい。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	緊張しやすく不安になりやすい。 新しい状況や、急な変更に対応するのが難しい。	相手の意図や感情を理解するのが難しく、相手への配慮が不足しがちである。		経験不足のため、作業に必要な基本動作の習得が不十分である。 集中を維持するのが難しい。	一方的に話しかけ、人とのやりとりを継続することが難しい。 相手の意図を受け止めることが難しい。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	相手の話を落ち着いてよく聞き、内容を理解したり、自分の思いを伝えたりすることができる。 新しい状況や急な変更にも、落ち着いて対応するように意識することができる。 課題に集中して、根気よく取り組むことができる。
------	--

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	学級内で継続的にスピーチを行う。	新しい状況や、急な変更についての事前説明を聞き、見通しを立てて活動する。	継続的にもものづくりや日常生活に必要な活動を行う。
----------	------------------	--------------------------------------	---------------------------

## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	1年	障害名	高機能自閉症・社交不安症
タイトル(題材名)	スピーチをしよう			
対象となる児童生徒の実態(タイプ)	・他者との関わりを求めているが、一方的な話しかけになってしまい、相手の話の内容をじっくり聞いたり、適切なやりとりをしたりすることが難しい。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話をよく聞き、適切な質問をすることができる。</li> <li>・自分の思いを、相手にわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

指 導 内 容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿って1分程度のスピーチをする。</li> <li>・スピーチ後、質問に答える。</li> <li>・友達のスピーチを聞き、質問をする。</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿って、聞く人にわかりやすいように話し方を工夫するところ。</li> <li>・スピーチへの質問にわかりやすく答え、会話を持続させるところ。</li> <li>・友達のスピーチを聞き、内容に関係する質問を考えるところ。</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチは継続的に行い、テーマについては生徒が内容を考えやすいものになるように教員が設定するが、徐々に生徒が考えるテーマを取り入れていくようにする。</li> <li>・生徒からの質問が一問一答になりそうな時は、教員が言葉を添えて、なるべく生徒同士の会話が続くようにする。</li> <li>・会話を続けるための話し方を具体的に示し、日常生活で使えるようにする。</li> <li>・友達のスピーチの内容をよく聞いて的確な質問ができた時はほめ、内容を理解しようとする意欲をもたせるようにする。</li> <li>・教員が言葉や態度で楽しい雰囲気を作り、会話を楽しめるようにする。</li> <li>・人前での不安に対処する経験を重ねるため、聞き手からの質問に自分で考えて答えるようにし、本人が困っている場合は教員がさりげなくサポートして人前での成功体験を増やすようにする。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して行っていくうちに、友達のスピーチを真剣に聞くようになってきた。</li> <li>・質問が単発で終わらず、会話が持続することが増えてきた。</li> <li>・決められた時間内に伝えたいことをまとめようと、話し方を工夫するようになってきた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の言葉かけを徐々に少なくしていき、生徒同士の会話の機会を増やす。</li> <li>・日常生活で使える言い回しを身に付けさせる。</li> <li>・相手の話を聞いてからそれに関連することを話す、という機会を設定する。</li> </ul>



# 自立活動実態シート

小(中)高	1年	障害名	心身症、自閉症スペクトラム、ADHD
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> 小学校低学年の頃は保健室登校が多く、5年生より不登校。中学に入学してからは半数以上は出席している。知的発達に遅れはない。社会生活能力の発達に軽度の遅れがある。
	<b>興味・関心・特性</b> ジャニーズのアイドルが好きで、この話題の時は普段話をしない人とも話をする。人のお世話をすることが好きで、自分から周りに気を遣って行動することができる。人と話すことが好きでよく話すが、一方的に話したり相手の話に興味を示さなかったりする。人や出来事に対して一度拒否すると気持ちを変えることは難しく、嫌悪感を前面に出す。人と適切な距離をもって接するが難しかったり、大きな声で話して人の注目を引こうとしたりする。分からないことやできないことがあると混乱し、人の話を聞くことが難しくなる。
	<b>生活や学習環境</b> 昼夜逆転の生活リズムになり、朝起きられないことが多い。学習意欲はあるが、継続することは難しい。
	<b>医療面</b> 障害にかかわることで継続的には医療機関を受診していない。また、保護者もその必要性を感じていない。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
生活のリズムが不安定である。	分からないことやできないことがあると、混乱し、人の話を聞くことが難しくなる。	・人と適切な距離をもって接することが難しい。 ・大きな声で話して人の注目を引こうとする。			人と話すことが好きでよく話すが、一方的に話したり、相手の話に興味を示さなかったりする。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活における様々な活動を通して自己肯定感や自己有用感を高め、学校に通う習慣を身につけることができる。</li> <li>・困ったことや不安に思っていることを教師に伝えることができる。</li> <li>・人と適切な距離をとってかかわったり、集団の雰囲気に合わせてたりする大切さを知ることができる。</li> </ul>
------	---

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	達成感を味わえるような活動や係活動を設定し、自信をもたせることで苦手なこともがんばろうと思う気持ちを育てる。	定期的に個人面談の時間を設けたり、休み時間に話したりすることで、教師との信頼関係を作り、不安に思っていることや心配なことを話せるようにする。	友達や大人との適切な関わり方について考えたり、小集団の中でコミュニケーション活動をしたりする。
----------	--	--	---

## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	1年	障害名	心身症、自閉症スペクトラム、ADHD
タイトル(題材名)	「たのむよ!まかせて!応援するよ」ゲーム			
対象となる児童生徒の実態(タイプ)	不登校期間が長く、友達や大人と適切にかかわることが難しい。会話が一方的になることが多い。人のお世話をすることが好きで、周りに気を遣って行動できる。			

ねらい	・相手の気持ちを考え、さらに自分の気持ちも伝えることができるようにする。				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② <b>③</b> <b>④</b>	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ <b>⑤</b>

指 導 内 容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4人の小集団でチーム対抗のゲームをする。</li> <li>・ 参加するゲームや順番をグループ内で話し合っ決めて。</li> <li>・ 計算(個人)、箸で豆つまみ(個人)、連想ゲーム(集団)、お絵かきリレー(集団)等</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数の中で話し合い活動をするところ</li> <li>・ 自分やチームメイトの得意な種目や苦手な種目を考えて参加競技や順番を決めるところ</li> <li>・ 自分の意見がうまく伝わったか確認するところ</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を伝えたり、人の意見を聞いたりすることの大切さに気付くように、必要に応じて声かけをしたり、一緒に相談したりする。(話し合いの中で失敗経験をしないように配慮する。)</li> <li>・ 生徒の実態を踏まえ、ゲームの中に「得意!」「これならできそう!」と思えるゲームを入れる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>活動例：連想ゲーム</p> <p>一つのお題から連想する言葉をチーム内で相談し発表する。解答者はそのヒントをもとにお題を当てる。</p> <p>例：お題「花火」⇒連想する言葉「夏」「祭り」「空」⇒解答者「花火」</p> <p>ゲームの具体的な意図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→自分が連想する言葉がみんなの共感を得られるかどうかを知ることができる。</li> <li>→3つの言葉でお題が連想できるよう、解答者の立場になって考えることができる。</li> <li>→解答者の答えを見て、自分たちの意図が伝わったかどうかを知ることができる。</li> </ul> </div>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回数を重ねる中で、少しずつ自分の意見を言えるようになった。</li> <li>・ 得意な種目に自分から参加したり、「苦手だけどやる」とグループのことを考えて行動したりできるようになった。</li> <li>・ 自分と相手の考えが重なった時にどうするか考えたり、思ったことが伝わらなかったときにどうしたら良かったのかを考えたりすることができるようになった。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お互いの良かったところを具体的に伝え合う方法を考えること。</li> <li>・ 相手も自分も大切にするための具体的な言葉遣いや適切な伝え方について考えること。(アサーションの視点をより多く取り入れる。)</li> </ul>

# 自立活動実態シート

小(中)高	3年	障害名	摂食障害、選択性緘黙症、自閉スペクトラム症
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> 自分の身体の状況を気にして、中学3年生になって食事制限のダイエットを始めた。夏休みころになって食事の取れない症状が現れた。
	中学3年生の秋に入院、学習空白を心配するようになったため、11月になり本校に転入することになった。家族以外とは話すことはほぼない。中学1～2年生の頃は、「はい」「こんにちは」は小さい声で言うことができた。
	<b>興味・関心・特性</b> 音楽を鑑賞することや男性アイドルについて話題にすることを趣味としている。
	<b>生活や学習環境</b> 中学2年生の頃から授業中に顔を上げなくなりノートを取ることが困難になった。そのため、学習が進まなくなった。 病欠以外はほぼ休みがないが、体育大会・修学旅行などの行事は緊張するため参加を見合わせた。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
栄養を適切に摂取することが難しい。	自分の気持ちや考えを伝えることへの緊張や不安	周りにいる人の目が気になる。			話し言葉を発することが難しい。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	栄養の摂取について理解を進め、体調を調える。 伝え合うことを通して、自分の気持ちや考えを整理し、はっきりさせる。 筆談や指差しなどを使って他者に伝える。
------	--

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	栄養摂取と体調との関係を理解する。	ワークシートを活用して、自分の気持ちや考えを書いて表す。	筆談や指差しなどを利用して伝え合えるようにする。
----------	-------------------	------------------------------	--------------------------

### 自立活動 事例シート

小 <b>中</b> ・高	学 年	3年	障害名	摂食障害、選択性緘黙症
タイトル (題材名)		自分の気持ちや考えを伝えよう		
対象となる児童生徒の実態 (タイプ)		意志が強く、自ら立てた目標は必ずやり遂げようとする。 同時に幾つもの課題を行おうとすると不安や気持ちの混乱が強くなる ことがあり、身体的にも疲労感が高まる。		

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の摂取について理解を進め、体調を整える。</li> <li>・伝えあうことを通して、自分の気持ちや考えを整理したりはっきりさせたりする。</li> <li>・筆談や指差しなどを使って他者に伝える。</li> </ul>				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持 ① ② ③ ④	心理的な安定 ① ② ③	人間関係の形成 ① ② ③ ④	環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤	身体の動き ① ② ③ ④ ⑤	コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤

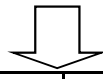
指 導 内 容	<p>① 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドサイドで自立活動の時間の指導を当初は中心にして設定し、生徒本人の病院での生活や興味関心のある話題を中心にやりとりをした。</li> <li>・筆談や指差しなどを多用できるようになったところで生徒本人の気持ちを尊重しながら、ベッドサイドで教科等の授業時数を少しずつ増やしていった。</li> <li>・体重の増加や体力の回復の様子を医師、看護師と共通理解しながら院内教室に登校して1日あたり数時間の授業に参加できるようになった。</li> </ul> <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒本人の伝え合う手立てにそって、表現された気持ちをしっかり教師が受け止める。</li> <li>・体調の変化について生徒本人と確認ながら学習を進め決して無理はしない。</li> <li>・ゆったりした学習環境を作り安心して学べるように授業中の配慮事項を複数の教師で十分共通理解する。</li> </ul> <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを持って学校生活を送れるように、事前に学習活動を知らせ、生徒本人が考え判断する時間を確保する。</li> <li>・病状により気持ちや体力の低下が見られることがあるので生徒本人、保護者、主治医と十分相談して学習活動を行う。</li> <li>・病状に関連して頭痛のあることが多いので、体調がすぐれないときには生徒本人の申し出を尊重し健康観察等を細かに行う。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の摂取について理解が進み、生徒本人が医師、保護者と相談しながら食べ物を摂取するようになった。</li> <li>・自分の気持ちや考えをはっきり伝えるようになり、教科等の学習、高校進学について積極的に取り組めるようになり、志望高校に合格することができた。</li> <li>・筆談や指差しを使うとともに小さな声ではあるが話して伝えることが増えた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題等に取り組む際、どのように解決すれば良いか教師と一緒に考え計画を立てる。そのために、体調を整え、休養を取りながら、ゆっくりとした学習ペースを作り継続する。</li> <li>・栄養の摂取と体調の様子について、毎日振り返りを続ける。</li> </ul>

# 自立活動実態シート

小④・高	3年	障害名	学習障害、うつ病、分離不安障害
教育課程	通常学級 重複学級 ・ (重度重複学級)		

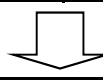
児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b>
	・自分で選択したり、決定したりする経験が少なく、自分で決められないことが多い。 ・体力がなく、毎日登校することが難しい。 ・学習空白があり、集団での活動経験も少ない。
	<b>興味・関心・特性</b>
	・ゲームやアニメが好きである。また、オリジナルのキャラクターを描くことが好きである。 ・物事を考えるとき二極思考で考えることが多い。 ・慣れている教員とは自分から話をする事ができるが、慣れていない教員や友達とは直接話をしたり、一緒に活動することが難しい。 ・疲れやすく、いすに座って姿勢を保持し続けることが難しいため、いすに座るよりも床に座ったり、寝転んだりすることを好む。
	<b>生活や学習環境</b>
	・寝るのが遅く、朝起きられないことがある。 ・寝る前にお菓子を食べる習慣をやめられない。 ・一人学級のため、生徒のペースで学習を進めている。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理



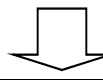
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
生活のリズムや基本的な生活習慣が整いにくい。	担任など慣れている人がいると集団活動に参加することができる。	慣れていない人とは、担任を介してかわる。自分のやりたいことを自分で決められない。	人に合わせて活動することが難しく、人や時間を意識して活動することが難しい。	いすに座った姿勢を長時間維持できず、いすに座って学習を続けることが難しい。	慣れている人とは、自分から質問したり、会話を続けたりすることができる。

いくつかの指導目標の中で優先する目標



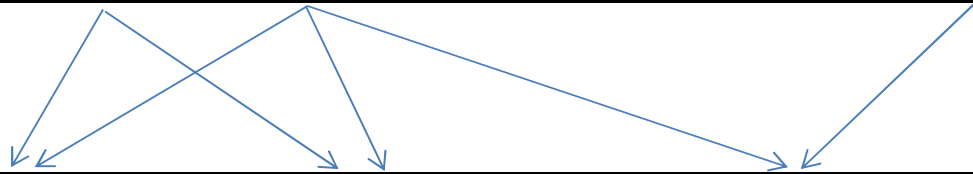
指導目標	・友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 ・さまざまな場面において、自己選択・自己決定ができる。
------	--

指導目標を達成するために必要な項目



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定



具体的な指導内容	客観的に自分を見つめ、受け入れる。	自分を振り返り、自己理解を深める。	同世代の女子とのかかわりを持ち、相手からの質問に答える。
----------	-------------------	-------------------	------------------------------

## 自立活動 事例シート

小・㊦・高	学年	3年	障害名	学習障害、うつ病、分離不安障害
タイトル（題材名）	仲間と一緒に「いまの自分」を振り返ってみよう			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	愛着障害からくる分離不安障害であるため、慣れていない人とかかわることが難しい。友達とかかわりたいと思っているが、自分から話しかけることはほとんどない。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な心理テストを用いて自分を振り返ることができる。</li> <li>・心理テストなどの結果を受け止めることができる。</li> <li>・心理テストなどの結果について、自分はどうだったか話すことができる。</li> </ul>
-----	---

### 自立活動でねらうポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

指 導 内 容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理テストを行い、結果を見る。</li> <li>・自分もっていたイメージと比べる。</li> <li>・お互いの結果について思ったことを話し合う。</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生女子との小集団での授業を設定する。</li> <li>・親しみやすい児童書の心理テストを用いる。</li> <li>・話しやすい雰囲気作りをする。</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間で終わる簡単な心理テストにいくつか取り組む。</li> <li>・心理テストの内容で難しい言葉が出たときは別の言葉に置き換えるか、言葉の解説を加える。</li> <li>・答え方に遅れが生じないように、質問をMTが読み上げながら一緒に取り組む。</li> <li>・MT、STも一緒に質問に答えて取り組む。</li> <li>・集計は複雑なところもあるので、時間がかかりすぎないように、必要に応じてMT、STがサポートする。</li> <li>・発言がなかなか出ないときは、MTから始める。</li> <li>・机を寄せて、お互いに顔が見えるよう座り方を変える。</li> <li>・どちらの生徒も話ができるように、MTが会話のきっかけを作るようにする。</li> <li>・慣れるまでは、必要に応じてSTが生徒の話したいことをサポートする。</li> <li>・リラックスして会話できるようにお茶を飲みながら話す。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と生徒の話し合いから生徒同士の話し合いになってきた。</li> <li>・他の場面で、自分から友達に話しかけることが増え、会話することが増えた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の学習だけでなく、意図的に1年女子と一緒に学習する機会を設ける。</li> <li>・コミュニケーションスキルや会話のマナーなども学習していく。</li> </ul>